

其儀の顔厚く思がら身と擽ら涙をぬる若人の後さなれた。此
君をこそんとて日を争てある里の精も妙座へ下りて飲め
をこれば粉面皆黒くどつるる。ふち命白妙を物とるん。膝
ひきまかれ鮮なるがめく眼の秋水の潤ぐどく若人月影を翫る花を
粧よふらるるをこの時ら強色の牆乃花の中へ登りてけしとるの巧
かりや。物い名ある君をどてとてとてあひし。世は疑りてゆりて。溫柔乃
性い妓女のみを極上。撒漫のよの移更を長ぐいむ。白妙と情意おぼ
らして。是より別り。期乃事。んて。瓜。器。元。より。白妙。煙。花。を。あ。ん。と
するの心ありふるま。う。志。の。あ。い。の。ぬ。を。流。く。を。な。ら。み。ひ。て。終。身。相
後ん。と。い。い。み。お。い。ぶ。ち。あ。い。只。又。なる。人の。想。う。と。思。ひ。く。白。妙。が。い。は
に。同。ま。せ。ん。底。解。を。ぬ。水。の。室。の。ま。も。怒。ら。ば。な。く。う。あ。げ。く。さ。ん。洞。
睡。月。兼。く。乞。巧。終。日。暮。と。い。は。ば。飯。と。極。く。て。ある。思。ひ。を。海。よ。く。ん。て。あ

因の底をさぐれば。情義をひき壁をよこせば。尚高し。只五人の中へは
を卓はして。其餘巨室大賈白妙をそんとて。いとも好む。小ち布張
を用りて。文差大使刀自矢と秋どる。て。た。ま。り。く。此。客。人。と。我。家。乃
揺錢樹。かろと。安を。と。れ。ど。必。や。怪。人。に。箇。中。小。聚。寶。盤。た。く。囊。中。の
日。空。之。と。刀。自。の。笑。私。漸。く。小。愛。と。因。り。小。ち。布。が。父。親。男。也。が。始
よ。の。り。て。終。跡。つ。じ。は。ず。と。て。書。と。よ。せ。て。回。せ。と。も。月。の。末。月。の。末
延。握。て。帰。ん。か。り。後。い。ま。の。ぬ。ら。く。な。く。と。て。定。後。上。の。思。ひ。を。て。無
思。ひ。者。より。利。を。い。て。文。の。い。れ。を。洩。く。利。足。て。愛。と。男。女。れ。ま。情
い。懐。乃。冷。か。る。よ。つ。け。て。心。の。裡。つ。く。熱。と。る。お。い。え。自。白。妙。と。い。え
は。け。て。他。を。あ。い。は。遠。ざ。り。ん。と。と。れ。も。只。身。は。う。て。あ。れ。ば。今。い。ま
小。ち。布。に。對。し。極。く。無。真。と。い。ひ。他。が。あ。つ。て。出。ま。ん。其。儀。僅。で。も。は。い
溫柔の人といひ。詞やうう。小。激。と。る。と。あ。ら。け。は。い。ま。只。い。ま。を。白。妙。と。の



ちりて我軍の衣舎に宿す。穿ら宿み喫ひ。本窓に宿をほり西に
新きと迎へ破人こゝにありて一とせし條り。新き言ひしより知音も
て。家々鍾馗あれど一匹の小鬼もより来りし。少女等へまはりて一室
人口水もまて飽ふ。足くは白妙の門戸乃作業。正公の言をまきだ
らひの取ひり。破人ゆり空もよれん。大銀を貰ひて方後ひく。今
勿くは言をせし。たかたに我軍をひく。人のいふも
のと。戸自云わ君かよく。彼を退せし。そをたさる。何れ我軍に衣舎
よりそゆん。今へとい。貧客に計り。他器量ありは。我費を我に。細
さ。和君彼に。跟て出せ。我外に。長と。か。と。士。女。を。計。り。活。と。ん。
他器量なくば。わ君つく。空となり。我若。後。見。し。言。ふ。ま。あ。り。
と。彼。人。今。窮。れ。彼。も。本。國。又。家。あり。我。費。を。女。一。事。へ。其。所。悔。も。
甲斐なめん。刀自。急。こ。ふ。る。ぐ。衣服。を。刀。こ。ま。ま。と。賣。は。く。一。條。と。し。

てとこれおる。本國のいふ。色なる。瓜。は。者。ども。に。安。は。ま。は。彼。は。き。は。
へ。お。る。瓜。ち。う。な。ご。も。と。君。が。身。れ。價。相。あ。の。数。あり。は。我。ふ。こ。念。な。り。
と。妙。教。を。そ。ひ。け。彼。が。も。ふ。お。な。れ。を。去。り。ほ。も。ま。り。の。説。こ。
し。正。公。更。に。説。て。端。的。を。去。り。ま。り。我。是。と。説。し。何。の。た。り。ひ。あ。ん。
と。後。冠。こ。人。が。白。ひ。居。る。席。を。け。ま。ま。を。説。て。な。り。ふ。ち。る。赤。面。
し。と。言。ふ。瓜。ち。う。な。ご。も。白。妙。の。傍。に。そ。ま。り。の。病。て。あり。し。が。いつ。は。正。公。た。
ど。其。教。を。説。ま。り。と。い。ふ。刀。自。公。の。算。計。を。長。の。齡。時。を。ま。り。も。
尚。白。業。の。趣。あり。別。人。た。ら。ば。謙。貳。百。疋。を。求。む。し。は。後。今。之。し。き。
時。を。た。ら。ば。百。疋。を。求。む。と。い。ふ。日。を。限。て。た。る。に。價。を。取。お。ひ。に。
人。を。け。さん。と。日。こ。か。な。は。我。家。に。ま。り。ま。り。ふ。ち。る。然。然。と。て。言。て。
お。ま。り。白。妙。取。言。し。と。云。か。ら。限。り。の。迎。へ。に。ま。り。ま。り。十。日。に。限。
を。延。て。約。を。な。し。と。刀。自。公。の。窮。人。百。日。を。限。る。と。も。か。ん。ん。ん。

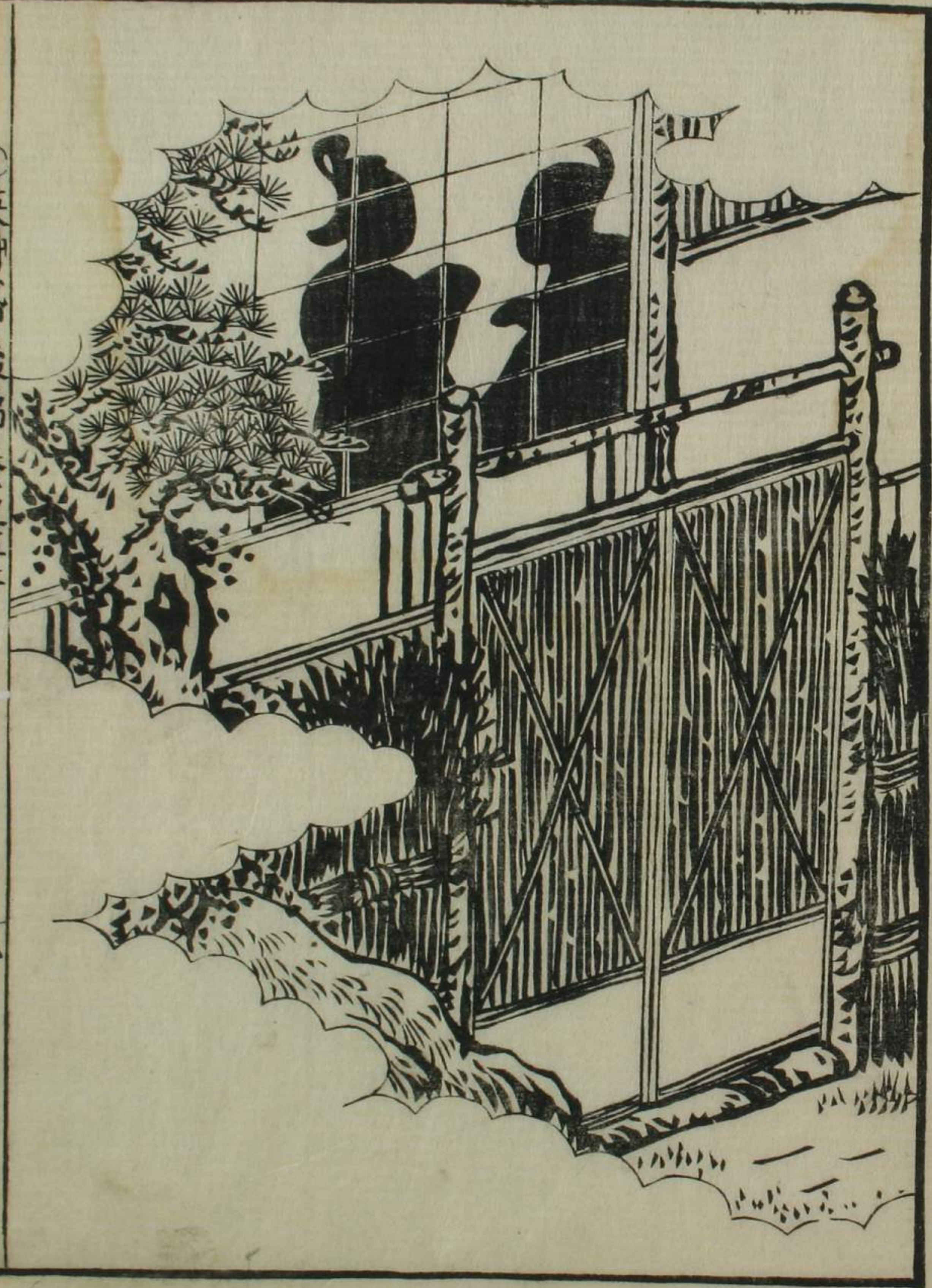
よそへてい成はく一人とこそこのをほるにあらんといふと申る。そ
 おいといふげがきて防ぬ。曉天よりして白妙ふを命をゆりさぬ。
 我既舗とてうれ枕と取て他へあてて此世の内へ幾両の砂金とつ
 ほみかへた。是はうらま月集ふ前。取去て箱に満るはすれ用は
 わらん。其餘は陸方岸屋へ求ち数へ充て。旅りの日をおゆるす
 事ありあふ。命收て枕をほみおとす。成徳と射していせうと申る。
 枕を解らるる。紫のうらにゆき砂金兼へ計ふ。又六十足れあり。
 成徳とて花柳よおふ。銀を切て早く身と抜といふ。標は聖
 言なり。枕はも好趣の腸に別めて俊傑と改ふとあさひん。幸ふは
 実情あり。是下とあさひくものたす。我一臂力力を助らんと。こく
 して百疋の價を乞ふ。あさひ。砂金へ難事の費用あらんと。其まのよ
 色し吾足下情弱なるに厭りくとも。其まは白妙が情は情は

べきがなる。ふち命成徳と謝して江口にあつ。白妙よ多てお調ぬと
 して。妙はて。先日一銭と調らる。今日あそと金き救とのいふ。小ま
 成徳とて言ふ。おのちいといふ。白妙人合者。在て云。我二人の親を
 むら岸君れ力なりと深く其志成徳を。其日なを日教の九日な
 まはゆかり妙の房は宿と。妙云。此身價は文易とる。いふ。即時
 へ。及てはてこ。成徳とて。出舟のそを。破砂金成徳南遊と換て
 成徳とて。成徳とて。此世ののふり。入ゆりて。宿に。後。明。朝。つ。う。失
 曉て。り。り。る。よ。起て。朝。日。ひ。ま。る。あ。刀。自。多。り。て。今。日。旅。の。十。日。あ
 約て。ま。い。ふ。ち。命。あ。と。好。う。と。強。百。疋。の。金。よ。花。陰。銀。二十。枚
 即ち。ら。る。あ。り。と。れ。お。た。刀。自。小。ち。命。が。銀。の。成。徳。と。て。今。さ。ら。悔。れ。あ
 氣。通。り。時。は。白。妙。云。我。此。家。よ。来。て。十。疋。生。活。よ。う。と。改。せ。と。成。徳。云
 子。の。命。今。日。我。身。の。泥。土。と。る。い。は。ひ。申。ふ。き。な。ら。ん。親。口。教。と。い。わ。ぬ

て今其取の。正公り信を失ひ及ば銀持てすうてと我も月
茶の取入つて人を賤と云つたが其の苦しむりといはれぬ怨言とて
刀自半响詞かめりしがうりき事をとてあらねどもにきみ去なりゆ
は平日に衣服調度此房にある物。この會とてりくくは小答を
きかく懐こいう。小答を白妙を房にせしと人推出し損を下す音さく
詞をわひては討後しねねは時九月のくを。白妙起てうりいはれぬ梳洗
せは垢衣のゆはれり梳洗かめりた公は背後をたて。年月の垢衣乃
うけ一身を賜らばかしの辱ありんや。我平生んをりた妹嫁わ
うそにて事をせらめんと小答ゆとす小其家を出川下の小雪の家
よゆて多強情きんぬよまうとつ。白妙が後衣のまき撥り梳せぬ
をりそ小雪まよ強らたいうあやうやといふ。白妙我刀自の怒はたた
梳せり。やとつ梳洗かめりし小雪小袖を取てし白妙よあふ二人

をぬりぬり其取の正公り宿せむ。妙も回舎人よ具とるとす。里
にあるの諸妓あそびてをりし栄耀をぬりぬり各各を
醉をそとぬ。妙も風流に領袖は良し其人をぬらりし。壽き
小雪まよ入しとて道退のんぬはあらわらぬ。小答ゆと。老父近日の
うはり。今又妓を娶て歸をすべからぬの中をぬらり人。是ゆに尚
万金の計をぬらり。小雪まよふい。大財豈能終に絶なきや。今倉卒其
顔をぬらり。昔の遊きしうに浮居し。後一人先うりてとて。まよふ。おめ。君
のゆととては後妙もせと追へる。まよふ。白妙定て我にゆりて出
るはよととてやとつげなり。ぬらりもこへる。あら。室の本よまて何
とら。まよふ。くのを。あら。お。まよふ。ぬらり。後者楫をぬらり。まよふ。
強い。ぬらり。諸もぬらり。後。明月雲井。其かの妓女。房ぬらり。まよふ。
とけ水に臨んで別をぬらり。小雪まよ。は。一つの提。厨を贈りて。まよふ。二人

英州帛後編卷之五十一



以ゆりまども安身の期定めて。長途のほまぐと憂。画軸競香。
 弄種々。是此里衆姊妹の儀乃お申中。しゆれおわたり。白妙足とあて
 謝辞。移るる。よ。空へ。此の君遠い。いと。人々。さ。と。水。は。う。せ。り。
 たり。ひ。ま。が。身。い。わ。さ。う。は。田。舎。よ。け。げ。は。あ。い。さ。と。あ。り。期。
 ろ。を。か。さ。う。の。あ。ま。も。な。ん。い。づ。れ。も。身。の。さ。ま。り。な。く。ふ。と。せ。め。ん
 ぶ。ま。ど。た。の。り。げ。あ。る。世。を。あ。あ。あ。と。い。ほ。く。も。つ。り。な。ら。ず。わ。れ
 の。さ。ら。あ。ね。と。も。を。あ。く。と。と。た。あ。た。去。り。あ。ま。も。ほ。ま。め。の。空。あ。る
 き。身。を。あ。た。れ。な。じ。か。こ。こ。へ。い。た。お。よ。う。う。葉。紫。の。便。紙。を。あ。め
 ろ。又。風。を。候。て。船。中。の。九。日。系。な。り。は。ま。ば。あ。が。戲。一。枝。を。画。て。ま。よ。
 贊。の。詞。よ。人。男。と。い。ふ。

解印歸來欲臥家
 丁寧莫索塵中種

東山離無菊首堪肥
 恐是路傍媚客花

安方つるの墨がたの霜系奇あて白景をいそん休自ら謙しては
 語函菊よ及びす我足をほんとて

船の上のりのるよりのういよるる筆れ露ちく妙の白菊
 妙吟と筆の露いふ恥じくやどくこ人御製めたりとあき日短夜
 て周防の室積しうりねをとり。此地と古里の便宜なれ。風景ある
 不又寓居を懸と箱崎の親しき方よひそんはげちて親の元也
 ともこのひやせ晴るる日。は。程。近。き。遊。行。雨。の。日。の。り。り。わ。て。酒。の
 こころやとんすことい我家のこちちとけり。あんなあり。口の。西。たり
 紫れ。ゆ。に。紫。の。酒。部。輔。原。繩。と。由。緒。あ。る。浪。人。何。の。生。業。よ。い。室
 積し。ね。日。客。寓。し。か。る。が。人。家。の。内。う。り。白。妙。う。男。に。ほ。と。非。回。こ。う。さ。え
 て。え。う。ろ。香。高。標。の。因。あ。り。て。果。あ。る。所。の。路。の。折。り。と。折。ぐ。あ。ひ。い。ま。え
 又。具。せ。れ。い。回。舎。よ。り。と。こ。を。城。よ。か。り。く。存。さ。か。く。跡。と。ん

とあさするに其形はさうぶくもあはれ紫江はつふくして白妙とならう牙
 の上をもまはりく朝夕に露はけて其露まらうとあさる白妙の寓より
 出ぬる人アとあれ紫江是を呼ぶとせしむるにさうとありと我考つる
 人家といさるひあまわらうまぬの人ア足下のためいさる人ぞ彼者も小
 人が足見に侍るたあふの用をのりたり。彼若き人あははてる人とあ
 へはるもいさる海賊のあつれとむまきとて我の公の命とまひそんけ
 ぬよの川に海賊をさうり捕まらるるなり。若死人其心して住む
 べあやあられあつれ笑止さるなりとほきくくつてい男以國の
 田舎人との政を叩て怒び懇志を賜り必ゆる謝しなむ。彼若き
 のは豊前そ郡領が一子いさる百具せる賣女と決絶なさは家督
 をも連続させんと。國なる親ハ一生對面せむと勅書せむ。小人
 日當洋に参着し問答救日と及べ。膽を細れはたゆみ取納せむ

とてていさる何とのかはくて女を棄却させ得たりとて浮揚つこ
 して父の不忠を誦めさせたきと涙を流し底を傾て語る。紫江は之
 二感しなむ。親族をあつて保切らるるなり。女の身あはかのまは
 負て計り。我門家の内にもまを授せらるるあはれいつたり。すれは
 ごとく。我のゆゑとさうりかくを露くるとさうりいさる。いさる海
 ならべ二人と保くはみまると。紫江は旅店をもあつて別とぬげ人の
 多のるを安方とせ安方とせこれ一族なり。紫江は教りくあつて女に授け
 不慮とせめつてあつてこの力をめて保し紫江は問をう。一教小なりと
 教旅亭といさるひあつていさる。いさる事と保しむいさる。いさる相
 家も血脈と不孝の身一人と帰る人。る大人平生最重なり人
 してあ方の教とて遊魚了。鮎子とせさうり愛を絶しきあなれば
 今女をせしとてあつて漂流とせなむと斬てと捨べくいさる。一属親友

多し。時家勢盛れ一人として主人のまを逐(お)はる
む。誰(た)の賢(けん)見(けん)のる祖(そ)をせんと人(ひと)詞(こと)を出(い)と人(ひと)のりとも。そ又(また)い
ろて又(また)てい却(か)て其人(ひと)も賢(けん)見(けん)をそへりて退(お)くゆかり。さあれば家(け)業(ぎやう)
を他(た)門(もん)の子(こ)にゆりて。賢(けん)見(けん)一(いち)生(せい)ぬへし。攻(こう)去(しよ)未(ま)しゆ。つらとほ
き旅(りよ)宿(しゆ)のたぐもあひ長(なが)くの計(けい)より。財(さい)を空(くわ)ろし。糧(りやう)に乏(乏)しうて
進(しん)退(たい)するせん。ふちあひ耐(た)ゆる中(ちゆう)の由(よし)大(おほ)事(じ)費(ひ)り。後(ご)に
かればそを逐(お)はりて怖(おそ)るるなり。ふちあひつと。ぬ人の水(みづ)性(じやう)凡(およ)くは角
もなかり。又(また)娼(おや)家(け)の女(むすめ)は。一時(ひととき)たり。後(ご)に時(とき)なり。彼(かの)高(たか)きは。妓(き)女(によ)
相(あ)識(し)の人(ひと)天下(てんか)に幾(いかに)ぞ。或(ある)は西(せい)國(こく)に存(ぞん)する男(おとこ)ありて。賢(けん)見(けん)を他(た)に
きり。餘(あま)りの地(ぢ)歩(ふ)とるるも。今(いま)もそのわき。ぬ人を人(ひと)に托(たく)す。獨(ひとり)居(ぐ)
よあし。賢(けん)見(けん)をさる家(け)のつら。しりたり。時(とき)に時(とき)に。軽(かろ)き。輕(かろ)き。世(よ)のまは。
後(ご)備(び)を責(せ)罪(ざい)にして。心の用(よう)をゆるし。世(よ)の言(こと)を謀(まを)り。むすむ。後(ご)に操(そう)を撓(なぐ)る

折(しよ)んと。藩(はん)をこえ隙(ひま)を抜(ぬ)て。必(かならず)事(こと)を仕(つか)へ。こゝろ。ぬれた。ぬれた。家(け)をこ
親(おや)と離(わか)る。浪(なみ)不(ふ)義(ぎ)の人(ひと)は。天(てん)地(ち)の間(ま)に。まはる。され。され。と。ひひ。りて。居(ぐ)
か。回(かへ)せられ。と。詞(こと)を。そ。詭(こ)言(ごん)せ。え。より。と。な。び。かる。小(こ)な。す。理(こと)の。由(よし)は。み
伏(ふ)し。自(ま)失(しよ)して。い。は。だ。然(しか)る。是(こゝろ)は。我(われ)不(ふ)義(ぎ)かる。の。と。も。推(お)し。出(い)で。り。今(いま)は。そ
免(めん)は。ん。計(けい)に。い。は。つ。く。と。ふ。か。し。計(けい)なり。女(むすめ)を。他(た)に。適(た)し。ち。獨(ひとり)身(み)に。して。帰(かへ)ら
ま。か。ん。た。た。の。ま。と。そ。又(また)の。恩(おん)を。も。り。あ。あ。と。せ。り。ち。乃(すなは)ち。輕(かろ)き。あ。び。ひ。じ。
女(むすめ)身(み)も。た。け。計(けい)ひ。あ。ん。ふ。ち。あ。み。ひ。切(き)ら。る。顔(かほ)も。と。女(むすめ)と。是(こゝろ)を。恥(かたじけな)し。
し。と。世(よ)の。ち。ろ。同(おな)じ。う。ね。は。れ。り。離(わか)る。事(こと)の。か。う。く。り。少(すく)く。其(その)端(たん)を。用(よう)
き。と。彼(かの)ち。有(あ)る。は。と。そ。と。と。海(うみ)の。ち。を。胸(むね)に。た。て。は。る。あ。み。は。て。に。
寓(あ)る。ゆ。め



